

代表質問

救急救命

救急ワークステーションの設置

救急医療のレベルアップや救命率の向上を図る

(ふじさわ市民党)

質問 救急要請をする市民の中には、一秒でも早く適切な処置を行うことが求められるケースも数多くあると思うが、医師が同乗するドクターカーなどの対応を含め、救急ワークステーションの設置目的、内容及びその効果について聞きたい。

答弁 現在、救急救命士は、法的な病院実習の再教育が義務づけられており、今後、救急救命士が増加していく中で、研修時間の確保が困難となることが予想されている。救急ワークステーションは、これを解消するために、救急隊の出動機能を兼ね備えた病院研修の場として市民病院の敷地内に確保するもので、本市救急医療のレベルアップ及び救命率の向上を図ることを目的としている。内容は、現有救急隊一隊を常駐体制で配

置するとともに、救急隊のほかにも職員を配置し、研修中の救急救命士に救急隊の滞りが長時間にならないよう、搬送してきた救急隊員に代わり、病院との連絡調整や事務の引き継ぎを行うものである。効果としては、医師の指導により、救急救命士の処置等における臨床スキルが向上するとともに、救急隊員と医師との相互連携が強化できるものと考えている。また、必要に応じて、医師が救急車に同乗して、心肺停止等重症救急事案について、医療行為等を早い段階から実施することにより、高度な救急医療の提供が可能となり、救命率の向上が期待できる。

質問 平成二十三年十一月に起きた遺伝子組み換え廃液の漏出事故については、本市と武田薬品工業(株)との協定に基づき、市民や議会への情報公開、報告を積極的に進めたいと思うが、どう進めたいか。

答弁 武田薬品工業(株)は、遺伝子組み換え実験廃液漏出事故への対応や研究所における作業手順などの検証を外部専門機関に依頼し、二十五年一月十七日に開催された周辺七町内会や本市民間企業が独自に事故対策について、検証内容の説明を行った。本市では、この連絡会議の議事録を周辺七町内会、関係者と調整している。

質問 特別養護老人ホームの今後の施設整備は、どのようになっているか。

答弁 特別養護老人ホームの整備は、高齢化率、高齢者人口の見込みと特別養護老人ホームの整備についての考え方を踏まえ、平成二十五年二月現在、本市の高齢化率は二二・二％となっており、高齢者保健福祉計画であるいきいき長寿プランふじさわ2014においては、団塊の世代が後期高齢者となる三十七年には高齢化率が二六・六％、六十五歳以上人口は、約十万人九千人になると予想している。

質問 特別養護老人ホームの整備促進を、どのように進めたいか。

答弁 特別養護老人ホームの整備促進は、南台地区において、それぞれ八十床以上の施設の募集を行っており、同じく辻堂地区ではパナソニック工場跡地のサステイナブル・スマートタウンで百床以上の施設を整備する準備を進めているところである。本市としては、十三地区



特別養護老人ホームの整備促進を

福祉窓口体制の今後の取り組み

(かわせみクラブ)

質問 福祉窓口業務及び相談機能の充実を目指す福祉窓口のワンストップサービスについて、具体的な取り組みを聞きたい。

答弁 平成二十五年の組織改正に伴い、福祉窓口業務における相談の充実を図るため、現在、新館一階に設置されている福祉保健総合相談室に福祉総合相談支援担当を部門内の総合調整機能として配置し、職員体制を強化することを考えている。

質問 新庁舎建設に向けては、市民が「迷わない・動かない・待たない」福祉窓口体制づくりのため、福祉関係各課を可能な限り一つのフロアに配置する隣接配置型を基本に、最善の配置方法や必要な人員体制等、市民の視点に立った福祉窓口体制の整備に向けた検討を進めているところである。

答弁 新庁舎建設に向けては、市民が「迷わない・動かない・待たない」福祉窓口体制づくりのため、福祉関係各課を可能な限り一つのフロアに配置する隣接配置型を基本に、最善の配置方法や必要な人員体制等、市民の視点に立った福祉窓口体制の整備に向けた検討を進めているところである。



病院研修の場の確保により救命率の向上が望まれる

質問 事故の検証内容、市民・議会へ報告を、(神奈川ネットワーク運動・藤沢) 武田薬品品南研究所

事故の検証内容 市民・議会へ報告を、(神奈川ネットワーク運動・藤沢) 武田薬品品南研究所

自殺防止の取り組み ゲートキーパーの養成 さまざまな職種の方を対象に

(藤沢市公明党)

質問 本市ではこれまで自殺防止対策としてさまざまな取り組みを行ってきたが、今後は自殺の可能性の高い人を早期発見、早期対応するため、ゲートキーパー

(※1)の育成や普及啓発に力を注ぐべきと考える。現状と今後の取り組みにつ

いて聞きたい。

答弁 本市では、ゲートキーパー養成講座として、定期的に地域の方と接する機会が多い理容業や民生委員・児童委員、障がい者施設の職員等、さまざまな業種の方を対象に、平成二十三年度は三百一名、二十四年度は一月末までに二百四十名の養成を行った。二十四年八月に改定された国の自殺総合対策大綱により、自殺する危険の高い方への早期対応の中心的役割を果たすゲートキーパーの養成が求められている。具体的な職種として、住民の健康状態等の情報に接する薬剤師や、顧客に接する機会が多い理容師等が期待されており、本市も、こうした職種の方を対象にゲートキーパー

質問 幅広い視点で検討を、(みんなの党藤沢)

バイオガス化施設 幅広い視点で検討を、(みんなの党藤沢)

グループホーム 施設への安全指導は、(自由松風会)

福祉窓口体制 今後の取り組みは、(かわせみクラブ)

施設への安全指導 グループホームの整備に当たり、火災事故などから入居者の安全を確保する

(※1)ゲートキーパー…悩んでいる人に気づき、声をかけ、話を聞いて、必要な支援につなげ、見守る人のこと。

(※2)バイオガス…生ごみ等を発酵させて得られる可燃性ガスのこと。

(※3)バイオマス…生物の量のことが、現在では、再生可能な生物由来のエネルギーや資源をいう。